

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24310181

研究課題名(和文) 多文化空間に生きる越境者の共同性再構築に関する地域間比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on the Remaking of Connectedness among Migrant Populations Living in a Multicultural Landscape

研究代表者

山田 孝子 (Yamada, Takako)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・名誉教授

研究者番号：20293839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円

研究成果の概要(和文)：多文化空間に生きる越境者集団における共同性再構築のメカニズムを、地域間比較のもと、チベット難民、中国系カナダ人、タイ北部の雲南系ムスリム、カザフ人帰還者の諸事例を人類学的・歴史学的視点から実証的に分析した。その結果、越境者の共同性再構築には、越境者ネットワーク、無私/慈悲の精神にもとづく個人や宗教者のリーダーシップの存在、ホスト社会との政策を最大限活用する共生の戦略、祝祭と宗教実践をとおした「伝統」の主張などが重要な道筋となることが明らかにされた。また、あらたな地域空間の創出を理解する上で、「下からの共生」という視点が重要となることが提起された。

研究成果の概要(英文)：The mechanisms of remaking connectedness among migrant populations who are today living in a multicultural landscape were analyzed from a comparative viewpoint based on cultural anthropological field research conducted among Tibetan refugees in Toronto, Chinese immigrants in Vancouver, Yunnanese Muslims in the Thai-Myanmar borderland, and the Kazakh returnees. As a result, it was revealed that certain factors, such as the establishment of a network among immigrants, the existence of secular or religious individuals who take initiative with selfless spirit, a symbiotic strategy of making the best use of the policies and measures of host societies, and the manifestation of traditional cultural heritage through festivals and religious practices, play key roles in the remaking of connectedness among them. Furthermore, it is suggested that a perspective of "bottom-up coexistence" is essentially important in understanding the process of remaking connectedness.

研究分野：人文学

キーワード：文化人類学 歴史学 多文化空間 越境者 共同性再構築 地域間比較

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年代以降のポスト・ソビエト地域における文化復興運動、あるいは世界の先住民における文化の再活性化運動は、近代化がグローバル市民というアイデンティティさえも作り出すとした西洋中心主義のグローバル化の理論に対する強い反証であった。グローバル化が進む今日、それぞれの社会において伝統の連続性が顕著に認められ (Yamada & Irimoto 2011)、ローカルな集団の存続にとって、独自の文化、社会、価値観の構築は見逃すことができない。

(2) また、移民、出稼ぎ、難民といった、移動を契機とし異なる社会での定住を選択する/せざるを得ないといった、人々の流動化がますます進む現状がある。マージナルな地位を引き受けざるを得ない移住集団は、圧倒的な他者であるマジョリティからの「同化」の圧力(脅威)のもと「個」の独自性が危機に瀕する中で、表層的には「同化」の様相を示しながらも、完全なる同化への道には至らず、ホスト社会との共生を図りながら「個」としての独自性を失わないために、共同性再構築を模索するのが認められる。

(3) 移動を契機とする多文化空間における共同性再構築・維持は、国家の枠組みや地域・歴史性によりその様態が大きく異なる。したがって、さまざまな理由により越境を選択し、多文化空間に暮らす難民、移民、離散者などにおけるローカルな共同性の再構築・維持・展開は、地域間比較により共通性と多様性を解明する必要がある。

## 2. 研究の目的

(1) グローバル化に逆行する形で生成される地域共同体が、いかなる有機的連繋と自立性によって維持・展開されるのかを解明するという全体構想のもと、多文化空間に生きる越境者集団の地域間比較により、ローカルな共同性の再構築・維持・展開の動態を解明することを目的とする。

(2) 具体的には、カナダのトロント在住チベット難民、北米西海岸の中国移民、カザフスタン共和国に帰還、またはモンゴル国などに滞留中のカザフ人ディアスポラ、タイ国北部の雲南系ムスリム社会を比較対象の事例とし、自己と他者との境界性、越境者の歴史性、ホスト社会との共存・共生戦略、コミュニティ内におけるリーダーシップなどの点から、共同性再構築・維持に不可欠な越境者の生きるローカルな政治的、文化的、社会的文脈とその独自性を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) カナダ・トロントのチベット人コミュニティ、カナダ・バンクーバーの中国移民、カザフスタン共和国・モンゴル国のカザフ人

ディアスポラ、タイ北部の雲南系ムスリム社会を対象とするフィールド調査の実施、研究会の開催により調査研究を実施する。

(2) フィールド調査は広域調査と集中調査からなり、共同性再構築の過程、宗教施設の建設や宗教・文化活動、歴史文化の具体的なあり方、故地などとの宗教的・民族的連繋、ホスト社会との共生戦略など、越境者における共同性再構築の動態について実証的データを収集し、整理、解析を行う。

(3) フィールド調査における研究方法は、参与観察・聞き取り、デジタルカメラ、ICレコーダーなどの機器によるフィールドデータの収集・記録、アーカイブなどの文献資料情報の収集からなり、情報データの整理、解析を行う。

## 4. 研究成果

(1) 平成24年度には、トロント在住チベット難民、カナダ太平洋岸在住の中国移民、カザフスタンに帰還したカザフ人ディアスポラ、台湾の宗教組織によるタイ北部中国系移民支援を対象とし、伝統の維持と共同性の維持・再構築に関する集中的フィールド調査を実施した。また、第111回アメリカ人類学協会年次大会(平成24年11月14-18日、サンフランシスコ)において、分科会「Regime Change and Border Crossings in Modern Asia: Transnational Politics, Religion and Social Spaces」を開き、越境、トランスナショナル、共同性という観点からレビューを受けた。平成25年度には、トロント在住チベット難民、バンクーバーの中国移民を対象とする調査を継続するとともに、カザフスタン、モンゴルにおけるカザフ人ディアスポラ、タイ国チェンマイにおける中国系ムスリムコミュニティにおける共同性再構築に関する調査を実施した。平成26年度には、ラダックで開催されたダライ・ラマによるカーラ・チャクラ儀礼、バンクーバーにおける中国移民、カザフスタン北東部を中心に、「帰還」カザフ人を対象とする補足調査を実施し、それぞれの社会における共同性再構築の実態を解析した。3年間の研究成果のまとめとして、平成26年12月5日~7日には、CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「移動と宗教実践 地域社会の動態に関する比較研究」、国立民族学博物館との共催により、国際ワークショップ「Migration and the Remaking of Ethnic/ Micro-Regional Connectedness」を開催し、多文化空間に生きる越境者の共同性再構築にみる共通性と個別性が討論された。

(2) トロント在住チベット人における調査研究からは以下のことが明らかにされた。カナダ定住開始からカナダ市民権獲得、チベット・カナダ文化センター(Tibetan Canadian

Cultural Center, TCCC) 開設への過程は共同性再構築の取り組みそのものであること、この過程において汎チベット人意識、アイデンティティの核となるグライ・ラマの存在とともに、慈悲の精神でリーダーシップを発揮する人材の存在が無視できないこと、共同性再構築の過程は、1971年の多文化主義政策の採択から1982年憲法法律と1982年権利及び自由の憲章の制定、1988年のカナダ多文化主義法の成立へと展開するカナダ政府の多文化主義政策とも無関係ではなく、これにより公認される独自文化主張の枠組みを最大限活用したホスト社会との共生戦略そのものであることである。

(3) カナダ、バンクーバーにおいて、2000年以降急激に発展している中国系住民の多様な歴史保存運動の調査研究からは、以下のことが明らかにされた。歴史保存運動は単なる出身コミュニティの保護ではなく、白人至上主義の根深い遺制を持つカナダ社会でのマイノリティとしての立ち位置の確立、次世代への歴史の継承という意図があったこと、彼らの活動の源流は1971年のカナダ政府の多文化主義政策の採択以前の1960年代のチャイナタウン開発撤去に反対する市民闘争に遡るが、1990年代に多文化主義政策がアジア系移民の言語文化活動を振興する方向に転換したことにより活性化したこと、移民やマイノリティ集団の政治的社会的エンパワーメントとアイデンティティ構築・継承手段の一つとして、彼ら自身の主導する歴史掘り起こし運動が存在することである。

(4) 在外カザフ人およびカザフスタンへの「帰還者」の共同性再構築の調査研究からは、次のことが明らかにされた。ソ連解体後のグローバル化の進展はナショナリズムに沿った移動を促進したこと、しかし、ナショナリズムを背景とした移動において、同一民族内の共同性は十分に機能せず、よりミクロな地域社会における共同性の再構築が不可欠であったこと、移住後の地域社会においては、「帰還」カザフ人は、地元のカザフ人から差異化(時には差別)されながら、儀礼・祝祭・食に関する地域的特徴の保持により内部の共同性を担保するとともに、ホストのカザフ人に対しては、再活性化した祝祭やイスラーム実践への積極的関与をとおして、「カザフの伝統」の継承者であることを主張し、社会的地位を確立したこと、祝祭と宗教実践をとおした「伝統」の主張が、移住者とホストのカザフ人との共同性再構築において重要な道筋となるという点である。

(5) 北タイ国境の華人社会、とくに雲南系ムスリム社会を取り上げた調査研究からは、彼らが、19世紀末から現代までの約100年間における中国、ビルマとタイをまたぐマク

ロな政治的経済的変動の中で、自立的かつ可变的にネットワークを作り変えながら生き抜いてきたこと、北タイ国境地域に数多くの難民村を形成し安住の地を確保するのみならず、脱難民化を模索する過程で、異なる民族と共生関係を作り宗教復興に力を注いできたことが明らかにされた。このような彼らの戦略を「下からの共生」と捉える視点が示され、あらたな地域空間の形成におけるモデルになりうるということが提起された。

(6) これらの事例研究の比較検討により、共同性構築においてリーダーシップをとれる人材の重要性、宗教的連帯、祭りや儀礼実践、歴史的記憶などが重要なファクターとなるという共通性が明らかになった。一方、チベット難民における宗教的指導者のカリスマ性、カナダ中国移民の事例にみる中国移民とカナダ先住民との文化歴史交流が広がりつつあるという文化歴史保存活動の新たな展開や、カザフ人ディアスポラの共同性再構築における地域的相違など、共同性再構築の多様な展開が明らかにされた。

#### 引用文献

Yamada, Takako & Irimoto Takashi(eds.), 2011, *Continuity, Symbiosis, and the Mind in Traditional Cultures of Modern Societies*, Sapporo: Hokkaido University Press

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 18 件)

Yamada, Takako, Ladakhi Shaman in the Multi-Religious Milieu: An Agent of Incorporation and Mediation. *Shaman Journal of the International Society for Shamanistic Research*, vol. 23, 2015 (accepted), 査読有

王 柳蘭, 下からの共生にもとづくネットワーク生成 タイに越境した雲南系ムスリムを事例に、福谷彬・中山大将・フセイ編、2014年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集、京都大学アジア研究教育ユニット、2015、64-72、査読無

藤本透子, 「歴史的祖国」への移住 カザフスタンにおける「帰還者」の生活と祝祭・宗教実践、CIAS Discussion Paper、No.47、2015、45-54、査読無

山田孝子, 人類学フィールドワークからよむ共同性の構築 インド独立後のラダックにおける宗教対立から共存への展開を事例に、CIAS Discussion Paper、No.39、2014、8-19、査読無

Sonoda, Setsuko, Guangdong Regionality in the Early Qiaowu Affairs of Overseas

Chinese, 張応龍主編《広東華僑与中外関係》広東人民出版社、2014、58-76、査読無.

園田節子、動向：華人社会 華僑・華人、中国研究所編、中国年鑑 2014、毎日新聞社、2014、89-91、査読有

園田節子、郷里と世界 中国広東省の僑郷から郷土史を考える、挟間史談会、挟間史談、4号、2014、123-130、査読無

園田節子、「内側」からの歴史の模索 - カナダおよびカリブ海地域華僑史研究の発展と運動、華僑華人研究、11号、2014、60-66、査読有

王 柳蘭、多元的結合から共生を考える、JCAS Discussion Paper、No.39、2014、3-6、査読無

王 柳蘭、越境過程における漢人・ムスリム関係の変遷 北タイ国境における共生、JCAS Discussion Paper、No.39、2014、52-60、査読無

藤本透子、カザフスタンの体制移行を生きる女性たち 草原の村の結婚と子育てを中心に、福原裕二・吉村慎太郎編、現代アジアの女性たち グローバル化社会を生きる、新水社、2014、135-153、査読有

藤本透子、在外カザフ社会におけるイスラーム動態、王柳蘭編、下からの共生を問う 複相化する地域への視座、CIAS Discussion Paper、No.39、2014、62-73、査読無

山田孝子、青海省同仁県におけるル口祭りの復興と維持、チベット文化研究会報、37(4)、2013、1-7、査読無

藤本透子、カザフ社会の近代化過程における宗教的儀礼へのまなざし 歴史資料への人類学からのアプローチ、CIAS Discussion Paper、No.34、2013、17-32、査読無

藤本透子、交錯する視点 カザフ社会の内外から伝統と近代を問う、地域研究、13(2)、2013、387-392、査読無

園田節子、書評論文 Him Mark Lai, *Chinese American Transnational Politics*, Urbana: University of Illinois Press, 2010, 280p., 華僑華人研究、9巻、2012、149-155、査読有

園田節子、動向：華人社会 華僑・華人、中国研究所編、中国年鑑 2012、毎日新聞社、2012、95-97、査読有

王 柳蘭、第56章タイの雲南系回民 - 多様な越境経験を経た定住化、中国ムスリム研究会編、中国のムスリムを知るための60章、2012、332-336、査読無

[学会発表](計 19 件)

山田孝子、難民社会にみるホスト社会との共生戦略 - トロント・チベット人社会の事例より、日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月30日、大阪国際交流センター(大阪市) 査読有、受諾

山田孝子、ホスト社会における難民の自己再定置と共同性再構築・維持 - トロント・チベット人社会の事例から、生態人類学会第20回研究大会、2015年3月26日、田沢湖公民館大集会室(秋田県仙北市) 査読有

園田節子、カナダ華僑華人研究最新動向：広東チャイナタウン史の周縁にあたる光、神戸華僑華人研究会第155回例会、2015年2月21日、中華総商会ビル10階会議室(兵庫県・神戸市)

Yamada, Takako, Leadership and Empathy in the Remaking of Communal Connectedness among Tibetans in Toronto, International Workshop on "Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness", December 6, 2014, National Museum of Ethnology, Osaka

Sonoda, Setsuko, History for Raising Self-awareness and Historiography for Strengthening Connectedness: The Vancouver Chinese in Multicultural Canada, International Workshop on "Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness", December 5, 2014, National Museum of Ethnology, Osaka

Wang-Kanda, Liulan, Bottom-up Coexistence: The Negotiation of Chinese Ethnicity, Islam and the Making of Ethno-religious Landscapes among Yunnanese Muslims in the Thai-Myanmar Borderland, International Workshop on "Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness", Dec.5, 2014, National Museum of Ethnology, Osaka

Fujimoto, Toko, Migration to the "Historical Homeland": Remaking Connectedness in Kazakh Society beyond National Borders, International Workshop on "Migration and the Remaking of Ethnic/Micro-Regional Connectedness", December 5, 2014, National Museum of Ethnology, Osaka

Wang-Kanda, Liulan, Halal Food, Identity and Negotiation among Chinese Muslim in Northern Thailand, Annual Conference of East Asian Anthropological Association, Panel 5-1: Everyday Strategy of Negotiating and Co-existence: Food, Self and Culture, November 11, 2014, Yeungnam University, Gyeongsan, South Korea.

Sonoda, Setsuko, Preserving Their Own History for the Old-Comer Chinese in Kobe, Japan, International Workshop Jinan University, Ireland Maynooth University and Singapore National

University “Migration Studies: EU and Asian Perspectives”, Jinan University, December 10, 2013, Guangzhou City, China.

園田節子、「内側」からの歴史の模索：カナダおよびカリブ海地域華僑史研究の発展と運動、日本華僑華人学会学会設立 10 周年記念シンポジウム「華僑華人研究の回顧と展望」、2013 年 11 月 16 日、慶應義塾大学（東京）

園田節子、歴史を残すことの意味：カナダの中国系住民の歴史運動、公開講座第 3 回「越境するアジアの人と多文化共生」、2013 年 2 月 16 日、大学共同利用施設 Unity（兵庫県・神戸市）

Wang Liulan, Han/Hui Ethnic Relations and Searching for the Commonality of being “Chinese” and “Muslim” on the Thai/Myanmar Borderland, Panel “Border-crossing and Redefining Selves: Inter-ethnic relations, ethnicity and searching for commonality in transnational Asia”, 6<sup>th</sup> East Asian Anthropological Association, Research Center for China Study, November 15-17, 2013, Xiamen University, China, 査読有

Sonoda, Setsuko, Historical Re-examination of Transnationalism before a Regime Change: Transnational Politics Practiced in the Chinese Communities in the Americas before 1911, American Anthropological Association 111th Annual Meeting, Session “Regime Change and Border Crossings in Modern Asia: Transnational Politics, Religion and Social Space”, November 17, 2012, San Francisco, USA, 査読有.

Wang Liulan, The Negotiation of Chinese Ethnicity, Islam and the Making of Trans-Regional Networks Among Yunnanese Muslims in the Thai-Myanmar Borderland, American Anthropological Association 111th Annual Meeting, Session “Regime Change and Border Crossings in Modern Asia: Transnational Politics, Religion and Social Space”, November 17, 2012, San Francisco, USA, 査読有.

Fujimoto, Toko, Revitalizing Religion through Border Crossings in Post-socialist Space: Comparative Analysis of Islam in Kazakhstan and Western Mongolia, American Anthropological Association 111th Annual Meeting, Session “Regime Change and Border Crossings in Modern Asia: Transnational Politics, Religion and Social Space”, November 17, 2012, San Francisco, USA. 査読有

Sonoda, Setsuko, Self-Reorientation and the Preservation of Historical

Sources on the Chinese in Vancouver and Kobe, Chinatown Historic Area Planning Committee, the City of Vancouver, September 11, 2012, Vancouver, Canada.

Yamada, Takako, A Comparative Perspective on Religious Minorities in the Soviet Union: Symbiotic Strategies of Amdo Tibetans in China for Keeping Folk Ritual Festivals, EASR Annual Conference: Ends and Beginings, 25 August, 2012, Södertörn University, Stockholm, Sweden, 査読有

王 柳蘭、中国雲南系ムスリムの越境と宗教の再構築、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012 年 6 月 23 日、広島大学東広島（東広島市）、査読有

藤本透子、越境空間におけるイスラームの再構築 カザフ村落社会の再編過程から、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012 年 6 月 23 日、広島大学東広島（東広島市）、査読有

#### 〔図書〕(計 4 件)

宇山智彦・藤本透子編著、明石書店、『カザフスタンを知るための 60 章』、2015、384 .  
藤本透子編著、春風社、『現代アジアの宗教 社会主義を経た地域を読む』、2015、473

飯塚宣子・王 柳蘭編、子どもたちは多様な地域に何を学ぶのか - 感じ方の育みと総合的理解の視点、JCAS コラボレーションシリーズ No.9、京都大学地域研究統合情報センター、2015、119

王 柳蘭編著、下からの共生を問う 複相化する地域への視座、JCAS Discussion Paper, No.39, 2014, 118 .

#### 6 . 研究組織

##### (1)研究代表者

山田 孝子 (YAMADA, Takako)  
京都大学・人間・環境学研究所 ( 研究院 ) ・  
名誉教授  
研究者番号： 2 0 2 9 3 8 3 9

##### (2)研究分担者

園田 節子 (SONODA, Setsuko)  
兵庫県立大学・経済学部・教授  
研究者番号： 6 0 3 6 7 1 3 3

王 柳蘭 (WANG, Liulan)  
京都大学・白眉センター・特定准教授  
研究者番号： 5 0 3 7 8 8 2 4

藤本 透子 (FUJIMOTO, Toko)  
国立民族学博物館・民族文化研究部・助教  
研究者番号： 1 0 5 8 2 6 5 3